

## 平成29年度 第1回青森市民図書館協議会 会議概要

- 1 日 時 平成29年11月24日(金) 14時00分～16時00分
- 2 場 所 青森市民図書館8階会議室2
- 3 出席委員 伊東暁生、蝦名理佳、安田聡子、伊藤理子、遠藤浩一、秋元美香子、  
中園裕、秋谷進、柴田章二（9名）
- 4 欠席委員 工藤宏（1名）
- 5 事務局出席職員 館長 若佐谷昭人、室長 工藤大輔、主幹 須藤裕二、  
主幹 村上泰子、主幹 中村篤、主査 高橋明子、主事 渡邊世梨華
- 6 次第
  - (1) 委嘱状交付式
  - (2) 組織会
  - (3) 第1回青森市民図書館協議会
    - 開会
    - 会長あいさつ
    - 報告事項
      - ・青森市民図書館の概要について
      - ・浪岡地区の読書活動推進について
    - その他
    - 閉会
- 7 会議の概要
  - (1) 委嘱状交付式

成田一二三教育長から出席委員に委嘱状を交付した。
  - (2) 組織会

委員改選後の初めての協議会のため、委員の互選により会長、副会長の選出が行われた。会長に伊東暁生委員が、副会長に秋谷進委員が選出された。
  - (3) 第1回青森市民図書館協議会

資料「報告事項（1）青森市民図書館の概要について」、「報告事項（2）浪岡地区の読書活動推進について」により、事務局から説明。

### **質疑応答**

主な質疑応答は以下のとおり

(委員) 図書の普及度合いを量る上で、貸出冊数が大事だと思うが、貸出冊数を比較した

資料はあるか。

(事務局) 平成 28 年度の青森市民図書館の総貸出冊数が約 1,190,000 冊であるのに対し、手元の資料では、弘前市は約 491,000 冊、八戸市は約 821,000 冊、秋田市は約 758,000 冊、盛岡市は約 821,000 冊、山形市は約 1,025,000 冊、仙台市は約 4,490,000 冊、福島市は約 968,000 冊となっている。数字上は、東北の同規模の市に比べて、青森市の貸出冊数が少ないということはない。ただし、各都市で人口も違えば、図書館のフロア数、本館・分館の数も異なるため、一概に比較することはできないと考えている。

(委員) 図書館資料、約 1,000,000 冊の中で、利用者が立ち入りできない閉架書庫にある資料は何冊か。

(事務局) 約 430,000 冊が開架書庫、残りの約 570,000 冊が閉架書庫に保管されている。

(委員) 利用者数や貸出冊数について、分析していることはあるか。

(事務局) 本館の入館者数は、開館当初の 90 万人台から 50 万人台に減ってきている。市民センター等の配本所の入館者数については、カウントされていない。

貸出冊数については、本館は減少傾向だが、市民センターの配本所等の館外分については右肩上がり、図書館全体としての貸出冊数は開館当初から同程度で推移している。

本館は減ってきているが、地域サービスを充実してきたことで、配本所等を利用する市民が増えてきたため、図書の総貸出冊数はさほど変化していないものと考えている。

(委員) 文藝春秋から図書館での文庫貸出を控えて欲しいという旨の報道があったが、図書館運営に影響はあるのか。

(事務局) 市民図書館は、利用者である市民の要望に応えるとともに、読書推進を図るという立場で運営している。文庫でしか読めない時代小説も多く出版されており、購入、貸出を控えることは考えていない。また、購入は 1 冊で、貸出期間は 15 日間のため、一月で二人しか借りられないということもあり、出版への大きな影響はないと考えている。

## 意見

・利用者が減少した原因として、平成 26 年度に 1 回あたりの貸出冊数の上限が 5 冊から 10 冊に改められたため、複数回来館しなくてよくなったということも考えられる。

・昨年度提案した件だが、浪岡重視という点では浪岡地区の読書活動推進を実施している。また、チラシのジャンル別スクラップの作成が実現されており、大変ありがたい。今後も継続してもらいたい。チラシは本館で入手できるものだけではなく、各配本所にも保管を依頼すれば、より良い地域資料がそろえると思われる。

・浪岡の人びとが関心を寄せる浪岡町時代の歴史や文化が解る資料を整理し、取り揃える必要があると思う。

・高齢化社会へ急速に向かっており、子どもが減少し、高齢者がすごい勢いで増えており、図書館に調べものにくる高齢者も増えている。そのため、高齢者の関心が高い歴史や音楽、美術等の図書を紹介するコーナーを設けたり、講座を設ける等、高齢者や大人の方々に開かれた図書館をお願いしたいと思う。

・昭和 50 年代以降、特にデジタル化が進んだ以降の比較的新しい資料が、軽視されて残っていないことが多い。更新される雑誌や年鑑等で、特に写真資料や旅行のガイドブック、住宅地図は貴重な地域資料であり、新しいものが出来ても古いものを捨てずに保管をお願いしたいと思う。

以上